

提出日 令和2年 1 月 17 日

2019 年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「 離島の進路指導について 」

氏名：岸本由夏 屋比久 朱音

所属学部学科：人文学部こども文化学科

I. 初めに

沖縄では年々人口が増えており、2019年12月1日現在では1,455,799人となっている。少子高齢化の時代の中で出生率が全国一と将来を担う子どもたちが沖縄で生まれている。沖縄全体を見ると人口が増えているが、離島になると島に住む人が少なくなっている。高校がないため島の中学生は本島や県外の高校へ進学する。また、将来県内の教員になると離島に行く機会があるため、そのことを踏まえこのテーマを調べてみた。

II. 研究の目的、動機

沖縄本島と比べて離島での進路指導がどのように違うのか調べてみようと思った。ほとんどの人が進学を選んでいるのか、就職を選んでも離島に残って仕事をしているのか、どんな仕事についているのかなど知りたいと思った。進路指導では先生方はどのようなことに意識して指導を行っているのか、本島の進路指導のやり方との違いはあるのかなど調べてみたいと思った。進路指導を行うにあたって、大変なことや難しいと思うことは何だろうかと感じた。

III. 研究方法、地域、期間

本島では図書館やインターネットで離島についての情報を集め、実際に石垣島内の小中学校と鳩間島の小中学校に行き進路指導を担当している先生や校長先生にインタビューを行った。地域は石垣島内の小中学校と鳩間島の小中学校を訪れた。期間は9月2日～9月4日の3日間。

IV. 結果

基本的には進学を進める学校が多い。その他に家の手伝いをしていてそのまま家業を継ぐケースもあった。進学に進む生徒は自分の夢実現に向けて自分なりに歩んでいる。家業を継ぎ、就職した生徒は身内の家業を継ぐことが多いため、しっかり受け継ごうと責任感が強く、自分の仕事としてやりがいを感じていると話を聞くことができた。また、学校側としては本人や保護者の意向を尊重し見守るとの答えもあった。

V. 考察、分析

離島となると、住んでいるひとが本島と比べて少なくなってしまう、こどもの人口も減ると思い、小学校や中学校があっても高校はほとんどが本島や県外の学校に進学するのではないかと考察した。そして、就職では離島でできる仕事に限られてくるのではないかと考え、就職としても本島や県外へ行くのではないかと考察した。

VI. 今後の展望

琉球弧研究で調査できたこの内容を自分たちが将来、先生になったとき生かせることができるようにしていきたい。まだまだ、知らない学校が多いので地元の学校だけではなく、そのほかの地域の学校を調べ、知ることでどんな取り組みがあるのか学んでいきたい。そして、様々な経験を通して自分自身の視野を広げ、価値観や考え方を幅広くしていき、

現場で生徒一人一人にあった対応ができるようにこれから努力していきたいと思う。

VII. 終わりに

今回私たちがこのような調査を行い、進路指導がどれだけ大切なのか、ただ進学すればいいという考えではなく、生徒それぞれにあった選択をさせてあげることが重要だと知ることができた。夢が見つかっていなければ、生徒に寄り添い、しっかり相談に乗ってあげ、一緒に見つけてあげるといようなことがとても大切だということを話を聞いていて学ぶことができた。さらに、進学先の情報がほかの学校と比べて集まりにくい、情報収集に時間がかかってしまう。進学先が県内だとまだ良いが、県外だと、自分たちで学校見学に行き、資料や案内を集めなければいけなくなる。情報収集に時間がかかってしまうが先生たちが進学を進める理由は、離島という小さな少数規模の学校のため、大人数のなかで、様々な価値観に触れ、自分の視野を広く持つてほしいという願いを聞くことができた。また、就職では身内の家業を継ぎ、自分の仕事にやりがいをもって取り組んでいるそう。このような調査を行いながら、本島でしかできないことがあったり、離島でしかできないことがあったりして、お互いで協力しあい、助け合うべきだなと感じた。

今回の調査でお世話になった石垣島、鳩間島のみなさんはとても暖かい人たちで優しく接してくれた。急なお願いにもかかわらず、丁寧に対応してくれてとても嬉しかった。台風の影響で鳩間島では少しの時間しか滞在できなかったが、とても興味深いところや様々な取り組みを知ることができた。一度の調査では足りないくらい訪れてみたい施設や会いたい方々があふれており、また話を聞きに行きたいところだった。調査に関わってくれた方々本当に感謝している。

VIII. 参考文献、調査協力

調査協力

石垣市立名蔵小中学校職員

竹富町立鳩間小中学校職員

鳩間小中学校元職員

参考文献

https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chiikirito/ritoukankeisiryo_kako.html

IX. 指導教員コメント

離島の子どもたちにとって進路の選択は人生を左右する大事な問題である。と同時に今回この課題に取り組んだ二人にとっても将来沖縄で教員をするならば、避けて通れない問題である。そのことの自覚と覚悟が出来たのは、この研究の成果だろう。